

### 4.3. グローバルリーダー育成校（広島叡智学園）



出典：国土地理院ウェブサイト (https://www.gsi.go.jp/) ※広島県が加工し作成

#### 1) プロポーザル趣旨

##### 「最高の学校を島に作る」

昨今、グローバル化の進展などにより、あらゆる資源が国境を越えて行き交い、社会経済システムから一人一人の日常生活に至るまで、広範な分野に影響を与えています。急速な人口減少社会の中、近い将来、日本の労働人口の約半数が就いている職業が、人工知能やロボット等で代替できるようになると指摘されるなど、より一層変化の激しい、先行き不透明な社会となることが予測されています。本県は、こうした危機を乗り越える「鍵」は、「教育」に他ならないと考えます。

平成26年12月には、「広島版『学びの変革』アクションプラン」を策定しました。プランでは、育成すべき人材像として「広島に学んだことに誇りを持ち、胸を張って『広島』『日本』を語り、高い志のもと、世界の人々と協働して新たな価値(イノベーション)を生み出すことのできる人材」を掲げ、すべての子供たちに「生涯にわたって主体的に学び続ける力」を育成することとしています。そして、目指すべき教育の方向性として、「知識を活用し、協働して新たな価値を生み出せるか」を重視する「コンピテンシーの育成を目指した主体的な学び」を進めていくこととしました。

しかし、目指すべきモデルが存在せず、各学校で具体的な

イメージに関する共通認識を持つことができないといった課題が生じています。これは、諸外国においても共通の課題であり、各国において様々な実践・研究が行われていますが、現時点では明確な解決策は確立されていません。

そこで、今般、「学びの変革」が目指す理想像として、突き抜けた取組を実践する「全寮制の中高一貫教育校」を新たに設置することとしました。この学校は、「国際社会の持続的な平和と発展を牽引するグローバルリーダー」を育成するとともに、県全体の教育水準向上を牽引する学校です。

この学校では、日本の教育と世界の教育のそれぞれの長所を融合させることにより、世界のどこにもない「新たな教育モデル」を創造していきます。教育内容、学校建築、いづれについても、国内外の英知を結集した、世界に誇るべき「夢の学校」となることを目指します。

一方で、「学びの変革」を早期に実現するため、県を挙げて本校の早期開校を目指していることから、建設工期の短縮に向けた工夫が求められるとともに、イニシャルコストの抑制はもちろん、地球環境への配慮やランニングコストの低減など、持続可能性に対する配慮も重要となります。

#### 2) プロポーザル審査委員（所属・役職は当時のもの）



**内藤 廣**  
内藤廣建築設計事務所  
東京大学名誉教授



**長澤 悟**  
教育環境研究所理事長  
東洋大学名誉教授



**錦織 亮雄**  
広島県建築士会前会長

**亀山 英治**  
大崎上島町副町長

**宮地 正人**  
広島県土木建築局  
建築技術部長

**寺田 拓真**  
広島県教育委員会事務局教育部  
学びの変革推進課長

**吉村 薫**  
広島県教育委員会事務局教育部  
高等教育指導課長



以上のことから、グローバルリーダー育成校(仮称)の基本・実施設計の設計者選定にあたり、公募型プロポーザル方式により、技術力や創造力のもとより、機動性や柔軟性にも優れた設計者を広く募集します。

グローバル育成校公募型建築プロポーザル説明書より抜粋



出典：国土地理院ウェブサイト (https://www.gsi.go.jp/) ※広島県が加工し作成

所在地	広島県豊田郡大崎上島町大串字西崎
設備用途	学校校舎、体育館、寮、グラウンド
敷地面積	約 110,000㎡
延べ床面積	13,200㎡程度
用途地域及び地区の指定	容積率、建ぺい率、日影規制の指定なし 広島県景観条例 大規模行為届出対象地区
主要構造	特に指定なし
建設工事費	約 3,909,000 万円程度 (建築・電気・機械・外構工事を含む)
建設期間	約 13 ヶ月

# 様々な世代や世界の背景の垣根を超えた 多様なアクティビティに満ちた場所の創造

日本を考えるには、世界を考えなければなりません。また、日本人だけで考えていても仕方ありません。世界は益々混沌としていますが、そのような状況下で「教育」が、未来に繋がると思えること。小さな街のような学校を旧ノ連と中国の国境地帯につくると、というプロジェクトに携わり続けている私たちに、そのアリティと困難さ。一方で広島・瀬戸内海という恵まれたコンテクストと敷地の意味がよく分かります。「グローバルリーダー育成校」は、確実に成功させなければならないプロジェクトです。豊富な学校建築の経験を生かし、私たちが提案する建築がその一助となることを望みます。



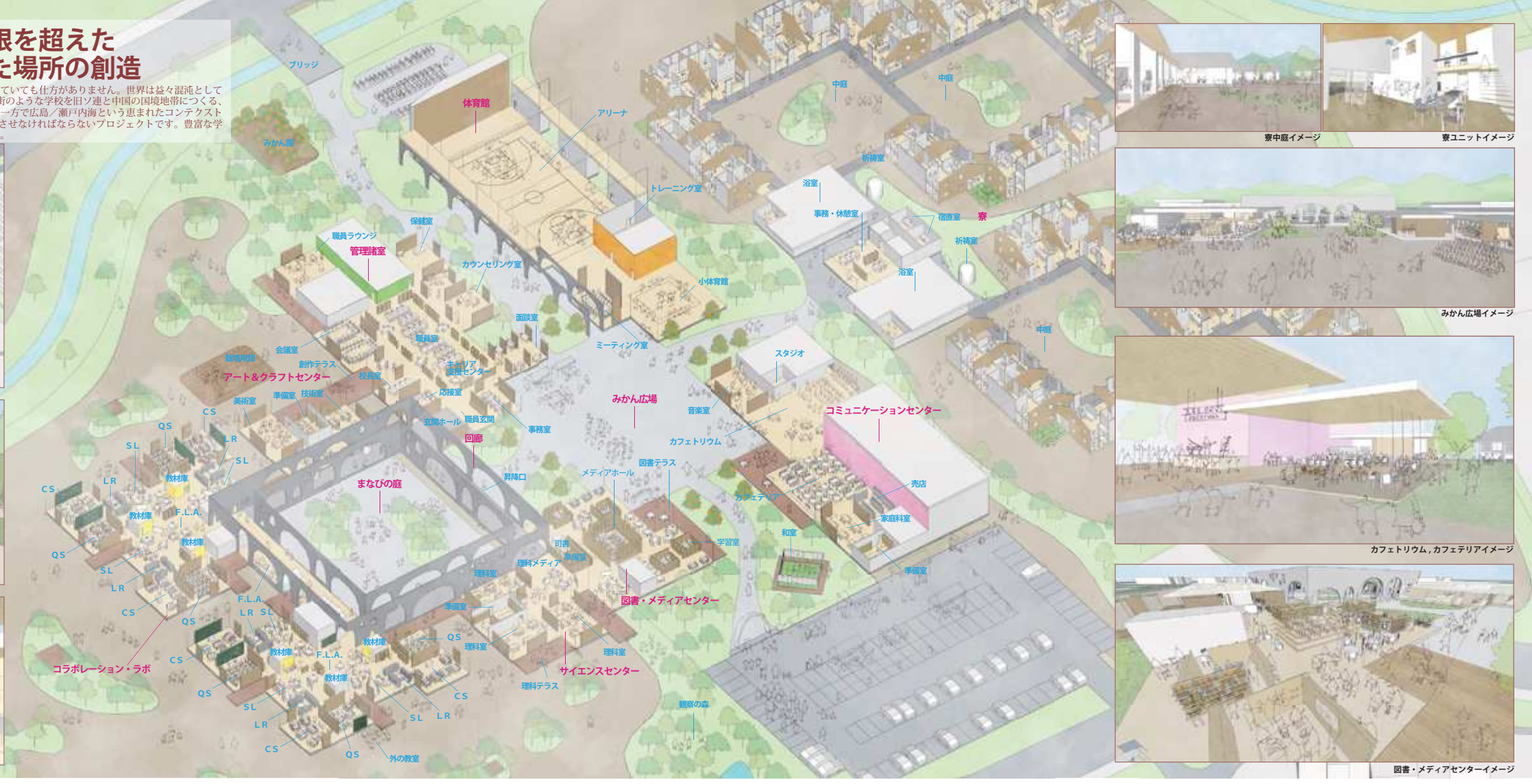
俯瞰全体イメージ



回廊と中庭イメージ



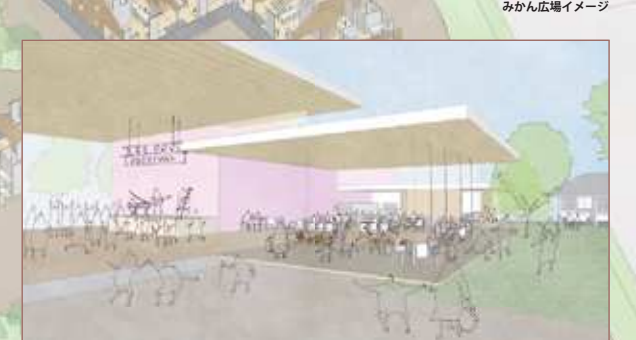
教室ユニットイメージ



中庭イメージ



中庭ユニットイメージ



みかん広場イメージ

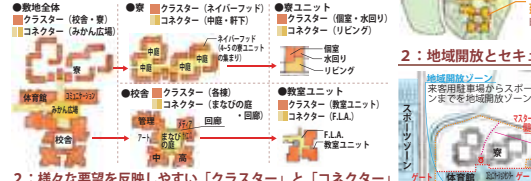


カフェトリウム、カフェテリアイメージ

## (ア) 学校づくりについて

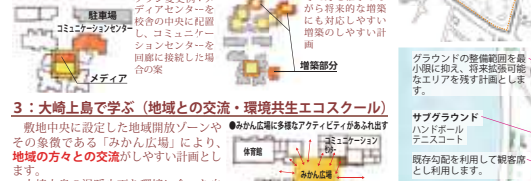
### 1: 多様性を支える「クラスター」と「コネクタ」

各機能毎のまとまりである「クラスター」とそれらを面的につなぐ「コネクタ」の考えにより、多様な人々のアクティビティに対応した様々な居場所をつくり、多様な人々の交流・協働が自然と生まれる環境をつくりたい。



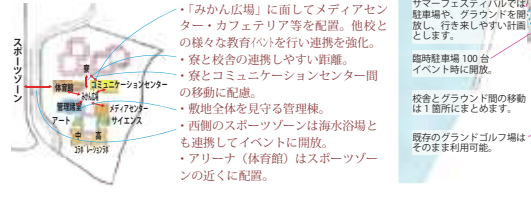
### 2: 様々な要望を反映しやすい「クラスター」と「コネクタ」

検討を進める中で様々な条件変更が予想されるため、それらを柔軟に反映し、発展している性格の提案です。



### 3: 大崎上島で学ぶ(地域との交流・環境共生エコスクール)

敷地中央に設定した地域開放ゾーンやその象徴である「みかん広場」により、地域の方々と交流しやすい計画とします。



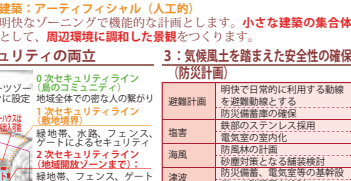
### 4: 相互に連携しやすい配置と距離感(平面ゾーニング)

「みかん広場」を面としてメディアセンター・カフェテリア等を配置。他校との様々な教育イベントを行い連携を強化。寮と校舎の連携しやすい距離感。敷地全体を見守る管理棟。西側のスポーツゾーンは海水浴場とも連携してイベントに開放。アリーナ(体育館)はスポーツゾーンの近くに配置。

## (イ) 配置計画について

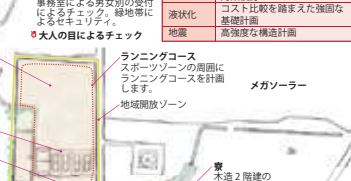
### 1: フィールドと建築をつくる豊かな屋内外の環境

フィールド: オーガニック(有機的) 柔らかな屋内外空間を面的につなぐ、内外に様々な学習環境と居場所をつくりたい。自然豊かな敷地の環境を生かし、自然との触れ合い、スポーツ、休息など、多様なアクティビティに満ちた屋内外空間をつくりたい。



### 2: 地域開放とセキュリティの両立

地域開放ゾーン(敷地開放ゾーン)を設定。地域全体での密な人の集まりを促す。1次セキュリティライン(敷地開放ゾーン)を設定。2次セキュリティライン(敷地開放ゾーン)を設定。3次セキュリティライン(敷地開放ゾーン)を設定。

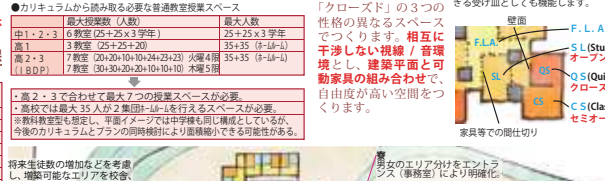


配置イメージ

## (ウ) 施設計画について

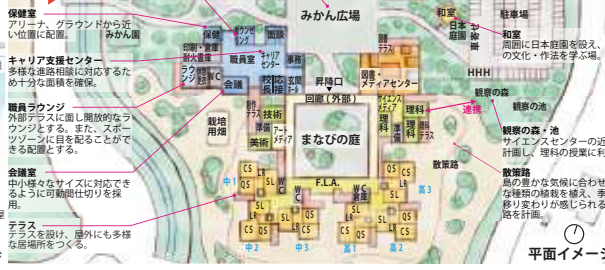
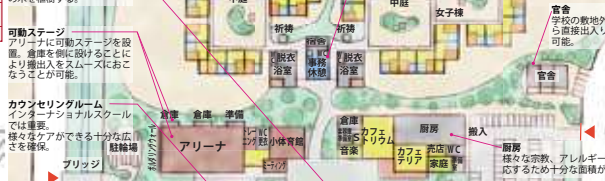
### 1: 教育カリキュラムの空間への翻訳・国際バカロレア・ディプロマ・プログラム (IBDP) に即した学習環境

特別教室型や教科教室型、そのハイブリッド、国際バカロレア・ディプロマ・プログラムにも対応可能な空間構成とします。



### 2: 多様な活動を支える計画のポイント

・内外の連続性が高い新自然な活動領域。テラスや中庭、取寄路など、屋外/半屋外空間を充実させ、新自然な環境を育みます。建物まわりで設けた内外の連続性が高い空間としながらコンパクトな整備範囲とします。

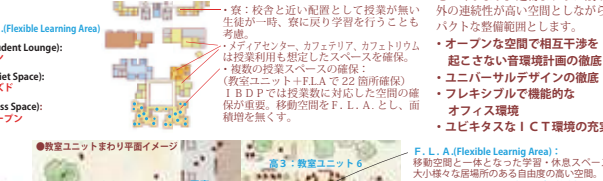


平面イメージ

## (エ) 施設整備方針について

### 1: コスト管理の徹底/室の重ね合わせ精査による建築コンパクト化検討

・コンパクトな建築として整備範囲を抑えます。廊下型ではなく、スペース連結型とすることで共用部面積を縮小し、コスト削減を図ります。同じシステムによる計画でスケールメリットを生かした計画とします。必要箇所を削減し室の重ね合わせを行い、建築コンパクト化とします。



### 2: 工期短縮計画/平成31年4月開校を必ず実現する工事工程計画

「クラスター」と「コネクタ」の考え方は、短い設計期間の中で後戻り無く様々な要望を反映できる骨格です。工事においても、発注先も視野に入れ、ある程度工事区分を分割し同時並行で工事を行える計画として工期短縮を図ります。基本的には開校時にすべての建物が完成している状態を目指します。一部後工事となる場合は明快な工事ゾーニングを行い、安全で快適な学校生活を確保します。

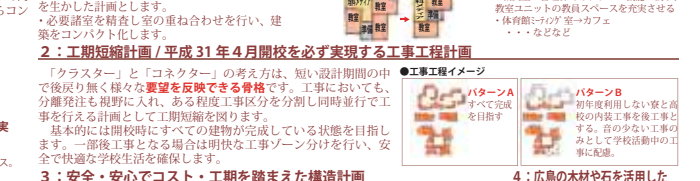


断面イメージ

## (オ) 施設整備方針について

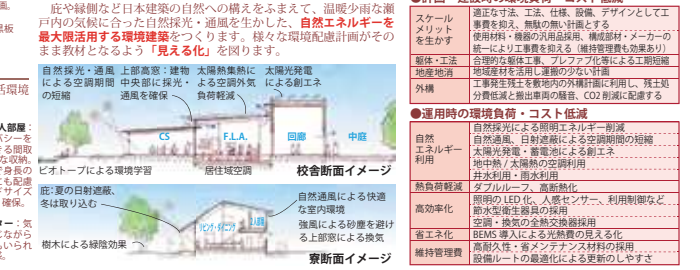
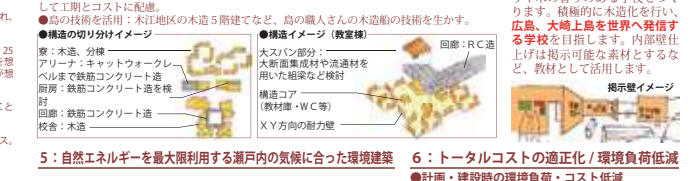
### 3: 安全・安心でコスト・工期を踏まえた構造計画

・耐震構造の活用: 本工場の木造5階建てなど、島の職人さんの木造職人の技術を生かす。



### 4: 広島の木材や石を活用した「世界へ発信する学校」

広島県内の木材や石材等の自然素材を積極的に活用し、手触りや木の香りのある学校をつくりたい。積極的に木造化を行い、広島、大崎上島を世界へ発信する学校を目指します。内部壁仕上げは現況可能な素材とすることで、教材として活用します。



断面イメージ



広島県立広島叡智学園中学校・高等学校

撮影：上田宏

瀬戸内の豊かな自然の中で暮らし、学ぶ学校

この学校は、広島県の大崎上島に計画された全寮制の中高一貫教育校である。国際バカロレア・プログラムや国際協働型プロジェクト学習などに取り組み、高校からは海外の学生も受け入れている。国内外の大学進学はもちろん、将来、地域や世界の「よりよい未来」を創造できるリーダーを育成するための学校である。

この学校にはふたつの敷地がある。海側にグラウンド、陸側に緑に包まれた校舎と寮があり、瀬戸内の豊かな自然に恵まれた環境がこの学校の魅力である。校舎のある敷地は、約6.5万㎡の大きな更地だったので、「みかん広場」「学びの庭」「生活の庭」と呼ぶ、建築で囲んだスケールの異なる中庭を設けた。学校と寮の活動単位に適したこれらの中庭を核として校舎と寮を配置し、敷地の9割近い外構は、瀬戸内の潜在的自然植生を考慮した野生の庭のようなフィールドとした。また、島の人びとと学生たちの交流が様々な場面で生まれるように、学校の中心にある「みかん広場」から海水浴場までを地域開放された遊歩道で繋いでいる。

広島県の歴史的な文脈を踏まえると、国内外の学生たちがこの島で一緒に暮らして学ぶ意義は大きい。広島県が教育改革に挑む新設校だからこそ、教育プログラムと各教室のチューニングに幅を持たせた空間構成が必要だと考え、教科センター方式と特別教室型のいずれでも授業運営ができる計画とした。襜（ひだ）の多い雁行配置の教室棟は、大きな木製引戸を開け放すと、内外が入り交じった半屋外の環境となる。さらに、瀬戸内の温暖な気候を生かした大きな庇下の縁側や「学びの回廊」等の渡り廊下は、学生一人ひとりが物事の本質と向き合える余白のような空間として位置づけた。学生が初めて一人暮らしをする寮は、成長過程に応じて選択できる個室と2人部屋で構成した10人単位のユニットと、50人単位のハウスという段階的な生活のまとまりを与えている。このような思考から導き出した建築は、各機能のまとまりであ

る「クラスター」とそれらを繋ぐ「コネクター」で構成している。この空間構成は、設計と並行して検討された教育プログラムのさまざまな要望を、クラスター単位で柔軟に反映させやすく、増築にも対応し易い骨格になっている。

瀬戸内の島で6年間学び、暮らした学生たちが、やがて地域や世界を開拓し続けるフロンティアとして旅立ち、ふるさとの島にその実りをもたらしてくれる日を楽しみにしている。（宇野亨/CAn）



撮影：上田宏



撮影：上田宏



撮影：上田宏



撮影：上田宏



撮影：上田宏



撮影：上田宏



撮影：上田宏



設計者：C + A・土井建築設計共同体 CAn ※土井一秀の経歴は県営吉島住宅参照

設計担当者：宇野亨（CAn パートナー）

1963年 岐阜県生まれ  
 1987年 東京電機大学工学部建築学科卒業  
 1987-1988年 東京電機大学 阿久井喜孝計画研究室 設計補助  
 1988年 株式会社シーラカンス一級建築士事務所 入社  
 1998年 株式会社シーラカンスアンドアソシエイツ（C+A）に改組  
 2006年 大同工業大学工学部建築学科 准教授  
 2009年 大同工業大学工学部建築学科 教授



豊田市役所藤岡支所・豊田市藤岡交流館, Aichi(2019) 撮影：上田宏



あぶくま更生園, Fukushima(2015) 撮影：トロロスタジオ



風の街みやびら, 撮影：上田宏